

平成29年度

中学校ブロックジョイントプラン

— 小中一貫教育推進計画 —

【小中一貫教育校(施設分離型)】

- 宇治中学校ブロック (菟道小・菟道第二小)
- 北宇治中学校ブロック (小倉小・北小倉小)
- 槇島中学校ブロック (槇島小・北槇島小)
- 西小倉中学校ブロック (西小倉小・南小倉小)
- 西宇治中学校ブロック (神明小・伊勢田小)
- 南宇治中学校ブロック (西大久保小・平盛小)
- 広野中学校ブロック (大久保小・大開小)
- 東宇治中学校ブロック (三室戸小・南部小・岡屋小)
- 木幡中学校ブロック (木幡小・御蔵山小・笠取小・笠取第二小)

【小中一貫校(施設一体型)】

- 黄檗中学校ブロック (宇治小)

宇治市教育委員会

目次

○宇治中学校ブロック（菟道小・菟道第二小）	… 1
○北宇治中学校ブロック（小倉小・北小倉小）	… 3
○槇島中学校ブロック（槇島小・北槇島小）	… 7
○西小倉中学校ブロック（西小倉小・南小倉小）	… 9
○西宇治中学校ブロック（神明小・伊勢田小）	… 13
○南宇治中学校ブロック（西大久保・平盛小）	… 17
○広野中学校ブロック（大久保小・大開小）	… 21
○東宇治中学校ブロック（三室戸小・南部小・岡屋小）	… 25
○木幡中学校ブロック（木幡小・御蔵山小・笠取小・笠取第二小）	… 29
○黄檗中学校ブロック（宇治小）	… 33

平成29年度 宇治中学校ブロック ジョイントプラン

一 小中一貫教育推進計画 一

宇治市立 宇治中学校 校長 南 享
宇治市立 菟道小学校 校長 小田 康博
宇治市立 菟道第二小学校 校長 荻野 修司

小中一貫教育コーディネーター（ラーニング、チーフには◎を付ける）

（宇 治）中学校 氏名 森田 佳恵
（菟 道）小学校 氏名 飯田 晴孝
◎（菟道第二）小学校 氏名 山田 健

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

- (1) 教育目標
ふるさと宇治を愛し、みらいを展望し、たくましく生きる児童生徒の育成
- (2) めざす児童生徒像
ア ともに学び、考える児童生徒
イ たくましく生きる児童生徒
ウ 笑顔大切にす児童生徒

2 昨年度の成果と課題

- (1) 3つの専門部会（宇治学、授業づくり、人権・道徳）で公開授業を実施した。事前研究会・事後研究会がともに実施できたことは大きな進歩であると考えている。
- (2) 小学生に対する中学校半日体験を、部活動体験、授業体験、生徒会本部役員からの学校紹介など、さまざまな形で実施できた。
- (3) 6年生が中学校生活について中学生に質問する、二小一中ミーティング（児童会と生徒会の合同研修会）を実施し、中学校進学に対する不安解消を図ることができた。
- (4) 小中一貫夏季研修会では、京都府立洛南病院副院長より、「薬物依存の現状と理解」について講演していただき、共通理解を図ることができた。
- (5) 現在、第3回専門部会については日程を限定せず、個々に開催しているが、実施内容についてはより意義深いものとなるよう、精査していく必要がある。

3 平成29年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点（各中学校ブロックにおける重点取組）

- (1) 小中合同の授業研究（事前研・公開授業・事後研）を、人権・道徳、授業づくり、宇治学の3つの専門部で実施する。
- (2) 小学生が中学校の部活動を体験できる取組（ふるさと宇治21におけるクラブフェスティバル）をさらに推進する。
- (3) 宇治中学校ブロックの全教職員が、各専門部の取組の進捗状況を共通理解するため、合同研修会終了の度に「合同研修会のまとめ」を発行し、職員会議等で各部からの報告を行う。
- (4) 保護者・地域へのより一層の啓発を図るため、小中一貫教育の取組をホームページや学校だよりで紹介する。
- (5) 「中学校入学時の定期テストに対する児童生徒の不安」の軽減に向けた取組を推進する。

4 平成29年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

- (1) 中学校ブロック推進体制の充実
ブロック校長会の指導のもと、教頭とコーディネーターを要とした推進体制の充実を図る。各校の教頭、コーディネーターで取組の方向性について検討し、ブロック校長会の指示のもと、具体的な取組を推進していく。
- (2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
年度後半に、授業づくり、宇治学、人権・道徳の3つの専門部会において、公開授業研究会（事前研⇒公開授業⇒事後研）を実施する。
また、授業づくり部会においては、小学校から中学校への円滑な接続を意図し、家庭学習に対する取り組み方の共通化等、「児童生徒の学力向上」に向けた取組を小・中学校協働で進める。
- (3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
これまで行っている交流授業（クラブフェスティバル、駅伝合同練習、鼓隊クラブ・吹奏楽部合同練習）の内容を精査し、より効果的な方法を検討し、実施していく。
- (4) 家庭・地域社会との連携
小中一貫教育校だより（FUTT）や学校だより、ホームページ等を積極的に活用しながら小中一貫の取組を紹介する。また、中学校教員が小学校に出向き、6年生保護者に対して「中学校準備講座」を開催したり、6年生児童に対して、中学校の「定期テスト」に対してどのように学習すればよいか、話をする機会を設けたりする。
中学校の学校だよりを6年生全員に配布し、中学校の様子をよく知ってもらおうとともに、各小学校の学校だよりを中学校の掲示板に掲示する。

ブロック小中一貫教育目標

**ふるさと宇治を愛し、みらいを展望し、たくましく生きる児童生徒の育成
めざす児童生徒像**

- ア ともに学び、考える児童生徒
- イ たくましく生きる児童生徒
- ウ 笑顔を大切にする児童生徒

昨年度の成果と課題

- (1) 3つの専門部会（宇治学、授業づくり、人権・道徳）で公開授業が実施できた。事前研究会・事後研究会がともに実施できたことは大きな進歩であると考えている。
- (2) 小学生に対する中学校半日体験を、部活動体験、授業体験、生徒会本部役員からの学校紹介など、さまざまな形で実施できた。
- (3) 6年生が中学校生活について中学生に質問する、二小一中ミーティング（児童会と生徒会の合同研修会）を実施し、中学校進学に対する不安解消を図ることができた。
- (4) 小中一貫夏季研修会では、京都府立洛南病院副院長より、「薬物依存の現状と理解」について講演していただき、共通理解を図ることができた。
- (5) 現在、第3回専門部会については日程を限定せず、個々に開催しているが、実施内容についてはより意義深いものとなるよう、精査していく必要がある。

今年度の重点

- (1) 小中合同の授業研究（事前研・公開授業・事後研）を、人権・道徳、授業づくり、宇治学の3つの専門部で実施する。
- (2) 小学生が中学校の部活動を体験できる取組（ふるさと宇治21におけるクラブフェスティバル）をさらに推進する。
- (3) 宇治中学校ブロックの全教職員が、各専門部の取組の進捗状況を共通理解するため、合同研修会終了の度に「合同研修会のまとめ」を発行し、職員会議等で各部からの報告を行う。
- (4) 保護者・地域へのより一層の啓発を図るため、小中一貫教育の取組をホームページや学校だよりで紹介する。
- (5) 「中学校入学時の定期テストに対する児童生徒の不安」の軽減に向けた取組を推進する。

今年度の取組

- (1) 中学校ブロック推進体制の充実
ブロック校長会の指導のもと、教頭とコーディネーターを要とした推進体制の充実を図る。
各校の教頭、コーディネーターで取組の方向性について検討し、ブロック校長会の指示のもと、具体的な取組を各専門部で推進していく。
- (2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
年度後半に、授業づくり、宇治学、人権・道徳の3つの専門部会において、公開授業研究会（事前研⇒公開授業⇒事後研）を実施する。
また、授業づくり部会においては、小学校から中学校への円滑な接続を意図し、家庭学習に対する取り組み方の共通化等、「児童生徒の学力向上」に向けた取組を小・中学校協働で進める。
- (3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
これまで行っている交流授業（クラブフェスティバル、駅伝合同練習、鼓隊クラブ・吹奏楽部合同練習）の内容を精査し、より効果的な方法を検討し、実施していく。
- (4) 家庭・地域社会との連携
小中一貫教育校だより（FUTT）や学校だより、ホームページ等を積極的に活用しながら、小中一貫の取組を紹介する。また、中学校教員が小学校に出向き、6年生保護者に対して「中学校準備講座」を開催したり、6年生児童に対して、中学校の「定期テスト」に対してどのように学習すればよいかを話をする機会を設けたりする。
中学校の学校だよりを6年生全員に配布し、中学校の様子をよく知ってもらうとともに、各小学校の学校だよりを中学校の掲示板に掲示する。

平成29年度北宇治中学校ブロック ジョイントプラン

— 小中一貫教育推進計画 —

宇治市立北宇治中学校 校長 松元 伸祥
宇治市立北小倉小学校 校長 藤井 宣夫
宇治市立小倉小学校 校長 海老瀬 正純

小中一貫教育コーディネーター

(北 宇 治)中学校	職名	教諭	◎氏名	有山	明利
(北 小 倉)小学校	職名	教諭	氏名	佐竹	正孝
(小 倉)小学校	職名	教諭	氏名	坂	一真

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

教育目標「質の高い学力を目指し、授業改善をすすめる」

(めざす子ども像)

- ・ 自ら考え、自発的に表現できる子 (知)
- ・ 人と地域とのつながりの中で豊かな心を育て、他を大切にする子 (徳)
- ・ 運動に親しむことにより、楽しく生活できる子 (体)

2 昨年度の成果と課題

(成果)

- ・ 学力を中心とした組織体制のもと、小中一貫教育の推進が図れた。

(課題)

- ・ 小中の連携を一層深め、学力を中心とした取組をさらに補充・深化する必要がある。

3 平成29年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点 (各中学校ブロックにおける重点取組)

(1) 小中学校の教員が連携して学力の向上を図る。

学力向上のための方策を研究する (小中一貫の視点から、日々の授業技術の向上や学力定着のための具体的方策を探り実践していく)

☆小中9年間を見通した学びを意識し、小中合同で組織化して取り組む

①学力部 (日常的活動) …全員が所属 (チーフコーディネーター以外)

【学力分析係】

- ・ 的確な学力分析により児童、生徒の実態を明らかにするとともに、具体的な取組の手立てを提案する。

【授業改善係】

- ・ 学力向上のための具体的な授業改善策や、児童・生徒の効果的な学習方法を提案する。

【学習規律係】

- ・ 9年間を見通した目指す児童・生徒像を明らかにし、小中を通した授業ルールを明確化する

【家庭学習係】

- ・ 小中それぞれに家庭学習の確実な定着における方策を練り実施するとともに、家庭学習の方法等を明らかにする。

【特支・教相係】

- ・ 対象児童、生徒に対する有効な方策やアプローチ法を模索するとともに、児童、生徒の実態交流をより細かく行っていく。

②授業部（シーズンの活動）…全員が所属し全教科で授業を実施するとともに、9年間の指導を見通し小中合同で指導案を作成する。

(2)各係会を中心に、小中一貫教育を推進する組織力を向上させる。

(3)保護者や地域住民などに、積極的に小中一貫教育の取組や成果等を発信していく。

4 平成29年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実

機能的な組織運営

- ・コーディネーター会議を原則月1回程度開き、調整する。
- ・企画会議を中心に原案を練り、それに基づいて各係が教職員の具体的な動きをつくり、小中一貫教育を推進する。
- ・各係会における「顧問」の設置（各小中学校校長・教頭が担当）…教頭の役割の明示

☆学力分析係…松元校長（北宇治中）

☆授業改善係…本田教頭（北小倉小）

☆家庭学習係…海老瀬校長（小倉小）

☆学習規律係…岸 教頭（北宇治中）

☆特支教相係…藤井校長（北小倉小）

☆授業部 …藤田教頭（小倉小）

- ・各係会は各自がいずれかの係会に所属する。（各校の管理職が顧問として各係会に所属）
- ・授業部会は各自がいずれかの教科に所属する。研究授業は原則全教科で実施する。
- ・各部、係会で各校1名の代表者を決め、代表者が各顧問の助言を受けながら中心となって部会運営を行う。

(2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

9年間を見通した学習指導・生徒指導のあり方を研究する。

①学力部係会（日常的活動）…全員が所属（チーフコーディネーター以外）

【学力分析係】

- ・個人や学力層の経年変化にも踏み込み、学力実態における課題等を明らかにする。
- ・各校の研究推進部や他の係会との連携や指示をしながら、学力充実の具体的な取組を提案する。

【授業改善係】

- ・各校の研究推進部や学力分析係と連携して学力向上のための具体的な授業改善策や、児童・生徒の効果的な学習方法を提案する。
- ・合同研究授業は原則、全教科で行う。
- ・合同授業研における3校共通の研究テーマを検討・提案する。

【学習規律係】

- ・9年間を見通した目指す児童・生徒像を明らかにし、小中を通した授業ルールを明確化する。
- ・昨年度の研究成果を受け、本年度はそれに従って具体的に実施する。

【家庭学習係】

- ・昨年度完成させた「家庭学習の手引き」の有効利用を図る。
- ・小中それぞれに家庭学習の確実な定着における方策を練り、実施する。
- ・中学校で作製し、小学校卒業時に配布する「中学校入学までの課題」を、小学校の先生の意見を交えて作製の検討を行う。

【特支・教相係】

- ・対象児童、生徒に対する有効な方策やアプローチ方法を示していく。
- ・小中それぞれの児童、生徒の実態交流をより細かく行い、連携を図っていく。

②授業部（シーズンの活動）…全員が所属し全教科で授業を実施するとともに、9年間の指導を見通し小中合同で指導案を作製する。

(3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

小中合同授業研究

- ・合同授業研究に向け小・中学校教員が協働し、指導案づくり等を通して小中一貫教育の視点を持って指導方法や教材研究等の交流を行う。（合同授業研究会は小倉小学校で実施）

学力の実態把握と分析

- ・京都府学力診断テスト、全国学力・学習状況調査等の結果を活用し、学力実態の分析を学力向上に生かす。
- ・各校の「いしずえ学習」の取組を交流し児童生徒の基礎基本の確実な習得・定着を図る。

カリキュラム作成における連携

- ・9年間を見通した年間指導計画を活用し、系統的継続的学習指導の充実を図る。
（カリキュラムの交流及び検討）

児童・生徒の交流

- ・学校行事や対外行事、地域ボランティア活動、児童会・生徒会活動を通して、児童・生徒の交流を通して、小小連携、小中連携をすすめる。
- ・小学6年生を対象にした半日入学の取組を実施する。

(4) 家庭・地域社会との連携

小中一貫教育ニュースの発行

- ・保護者向け小中一貫教育ニュースを学期1回程度発行し、活動内容を保護者・地域に紹介していく。
- ・他の広報紙発行等を行い、ブロック内の小中一貫教育の取組の情報発信を適切に行う。

合同講演会の取組

- ・ブロック内保護者、地域住民、教師が一堂に会し、児童・生徒の健全育成のために、何をすべきかを考える場としての合同講演会を設定し、小中一貫教育の取組を地域に根ざしたものにしていく。（本年度は北小倉小学校で実施）

家庭学習の取組

- ・本年度に発行する「家庭学習の手引き」を活用し、保護者の協力を得つつ、家庭学習の時間を定着させることで学力の向上を図る。

ブロック小中一貫教育目標

「質の高い学力を目指し、授業改善をすすめる」

めざすこども像

- ・自ら考え、自発的に表現できる子(知)
- ・人と地域のつながりの中で豊かな心を育て、他を大切にする子(徳)
- ・運動に親しむことにより、楽しく生活できる子(体)

昨年度の成果と課題

- ・新しい組織体制のもと、学力面を中心に小中一貫教育の推進が図れた。
- ・学力充実を中心に、小学校と中学校の連携を一層深めていく。

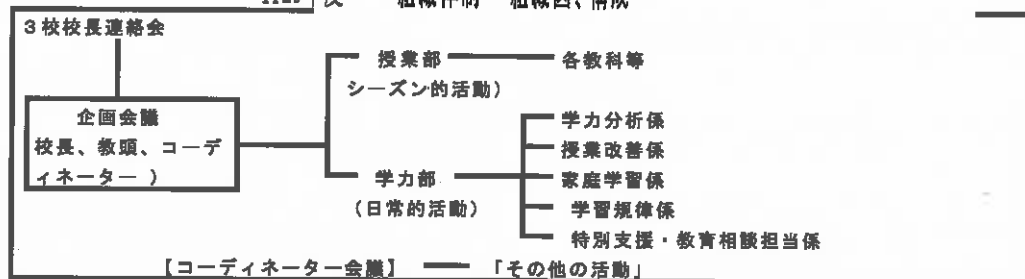
今年度に向けて

- ・系統的継続的取組を通して、学力充実を中心に小中一貫教育の推進を図る。

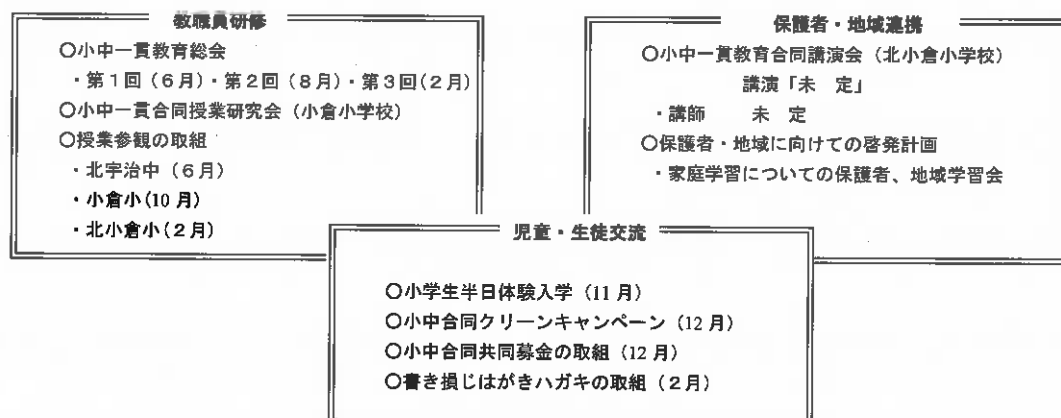
今年度の取組

【推進組織】

H29年度 組織体制…組織図、構成



【取組の概要】



平成29年度 榎島中学校ブロック ジョイントプラン

小中一貫教育推進計画

宇治市立榎島中学校 校長 大槻 政己
宇治市立榎島小学校 校長 川合 早苗
宇治市立北榎島小学校 校長 吉永 均

小中一貫教育コーディネーター

(榎島)中学校	職名	教諭	氏名	辻本 直文
(榎島)小学校	職名	教諭	氏名	芦田 吉生
◎(北榎島)小学校	職名	教諭	氏名	糸川 武秀

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

小中一貫教育目標 めざす子ども像

「豊かな人間性と未来を創造する子どもの育成」
心身共に健康で、明るく活動する子
意欲的に学び、深く考え、豊かに表現する子
地域でつながり、共に支え合い、高め合う子

2 昨年度の成果と課題

- ◇各校コーディネーターが連携し、連絡・調整・共通理解を進め、取組を計画的に実施することができた。
- ◇教職員研修では、ブロックの学力分析やそれを踏まえた合同研究授業を4教科領域で実施し、児童生徒の課題に迫る研究を推進することができた。
- ◇合同研究授業については、系統的・統一的な指導のあり方を追究する機会として、継続・発展させていく。

3 平成29年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点（各中学校ブロックにおける重点取組）

☆榎島中学校ブロック研究テーマ

“話し合い活動(主体的な学び・対話的な学び・深い学び)”をテーマにした授業作りについて

目的：話し合い活動を充実させることで児童生徒の意欲的な学習活動につなげ、授業を通して子どもの力をつけていく。

4 平成29年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

- (1) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実
「夢・未来」会議を推進の要とした組織体制の中で、小中一貫教育の取組や各部の研究実践を推進する。そのため、榎島中学校ブロック校長会、教頭会、コーディネーター会議、を定期的に行い、連携をより強化する。教職員広報を発行し、小中一貫教育推進に関わる情報を発信し、小中学校の教職員の共通理解を図りながら、取組を推進する。
- (2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
9年間を見通すことのできる教科の年間指導計画〔宇治スタンダード〕を活用し、児童生徒の発達の段階に応じた系統的・継続的な学習指導を推進する。
小中の接続をスムーズに行えるよう、綿密な連携や研究・研修を推進する。
- (3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
 - ア 小学生の中学校体験入学
中学進学への不安を解消し、中学校生活への見通しを持つために、中学校での授業体験と部活動体験を行う。
 - イ 中学生の職場体験
榎島中学校の2年生が、榎島小学校と北榎島小学校で、朝の児童の登校を迎えるあいさつや、学級での授業支援、休み時間や給食時間での児童との交流、環境整備など、様々な活動を体験する。
 - ウ 小・中学生の主張交流会
榎島中学校の「中学生の主張」学年代表と、北榎島小学校6年生の「将来の夢」学級代表が発表し、交流する。榎島小学校の6年生は、その様子を映像で鑑賞する。
 - エ 中学校文化祭演劇の鑑賞
榎島中学校文化祭の演劇発表を北榎島小学校5年生が鑑賞する。
 - オ 児童会・生徒会の連携
小学校児童会と中学校生徒会の合同会議を行い、合同あいさつ運動など連携を図る。
- (4) 家庭・地域社会との連携
小中一貫教育便り「マキシマム」の継続発行(保護者配布・地域回覧)やHPへの掲載、各校の情報誌での小中一貫教育目標やめざす子ども像、取組等の広報や校内掲示等を行い、小中一貫教育に向けた取組や研究を積極的に情報発信する。また、学校・地域行事で、児童生徒が共に活動したり、交流したりする場面や小中一貫教育の成果を発揮する場面を設定する。また、本年度よりPTA・育友会役員において小中一貫教育について学習会を実施し、地域・保護者との連携の意識を高めていきたい。

平成29年度 榎島中学校ブロック

小中一貫教育

マキシマム・プラン

小中一貫教育目標とめざす子ども像
「豊かな人間性と未来を創造する子どもの育成」

- 心身共に健康で、明るく活動する子
- 意欲的に学び、深く考え、豊かに表現する子
- 地域でつながり、共に支え合い、高め合う子

成果と課題

- ◇各校コーディネーターが連携し、連絡・調整・共通理解を進め、取組を計画的に実施することができた。また、ブロック校長会、ブロック教頭会の推進も図れた。
- ◇教職員研修では、ブロックの学力分析やそれを踏まえた合同研究授業を4教科領域で実施し、児童生徒の課題に迫る研究を推進することができた。
- ◇合同研究授業については、系統的・統一的な指導のあり方を追究する機会として、継続・発展させていく。

今年度の重点

☆榎島中学校ブロック研究テーマ

“話し合い活動(主体的な学び・対話的な学び・深い学び)”をテーマにした授業作りについて

目的：話し合い活動を充実させることで児童生徒の意欲的な学習活動につなげ、授業を通して子どもの力をつけていく。

取組

教職員研修

- 小中合同研修会(6/13 榎島中)
- 小中合同部会・教科部会(8/21 北榎島小)
- 小中合同公開授業研究会(11/21 榎島小)

児童生徒交流

- 陸上運動交歓記録会(10/6)
- 中学生の職場体験(1.0/25～27)
- 小学生の中学校体験入学(11/8)
- 児童会・生徒会挨拶運動
- 小中学生主張交流会(3/2)

保護者地域連携

- 北榎島小学校区青少年健全育成協議会「夏祭り」(8/5)
- 榎島小学校区左義長(1/13)
- 北榎島小学校区餅つき&クリーン運動(1/20)

平成29年度 西小倉中学校ブロック ジョイントプラン ー 小中一貫教育推進計画 ー

宇治市立西小倉中学校 校長 久保田 正宏
宇治市立西小倉小学校 校長 堀井 眞
宇治市立南小倉小学校 校長 川井 利彦

小中一貫教育コーディネーター

西小倉中学校 氏名 村雲 賢也
西小倉小学校 氏名 奥山 紀子
南小倉小学校 氏名 ◎手塚ゆかり

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

小中9年間を通して 地域と共に 子ども達の ゆたかな心と 確かな学力をはぐくむ

- ・自分の考えを 豊かな表現力で伝え合う子
- ・地域とつながり 思いやりの心を大切にする子
- ・健康に気をつけ 自らの目標に向かってがんばる子

2 昨年度の成果と課題

【成果】

- ・夏季合同研修会において、京都府学力診断テストの結果、「見える化シート」の分析をもとに、本ブロックの児童生徒の学力等の実態を全教職員で確認し合うことができた。その中で、従来の知識伝達型の授業ではなく、教師と児童生徒、児童生徒同士が意思疎通を図り、主体的に学習することの重要性も三校で再確認できた。また、『児童生徒同士や児童生徒と保護者、教師、学校の「つながる力」が、学力の向上に結びつくのではないか』という仮説のもと、パネルディスカッションを行い、各学校の自校分析へとつなげることができた。
- ・合同授業研究会(1回)、フリー参観(2回)を行い、児童・生徒の様子を互いに知ることができた。合同授業研究会後の分科会では、各校の状況を具体的に協議することで、各校の情報共有や、学力充実にに向けた具体的な手立てを探ることができた。

【課題】

- ・三校で共通理解できた成果を深めるために、各部会の取組を整理し、確実に実行する必要がある。
- ・学力の充実向上に向けて、各校で各種診断テストの分析を行い、小中間・小中間で更に丁寧な協議を行う必要がある。
- ・各部担当コーディネーターを中心に、取組の共通化や改善を進める。

3 平成29年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点(各中学校ブロックにおける重点取組)

- ①合同授業研究会の開催と教員の授業力向上の取組
- ②家庭学習の定着と充実にに向けた連携した取組
- ③児童生徒交流の取組の具体化と改善
- ④保護者・地域との連携

4 平成29年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 中学校ブロック推進体制の充実

- ・月1回程度のコーディネーター会議で合同研究会の計画や各部の活動状況を把握する。
- ・月1回の推進会議を持ち、コーディネーター会議の内容を確認し、協議する。
- ・教頭会を推進組織に位置づけ、教頭とコーディネーターがリーダーとなる推進体制を構築する。
- ・各校校長、教頭がそれぞれ「学力充実・向上部」「生徒指導部」「児童生徒交流部」の担当に入り、部の責任者(コーディネーター)と相談しながら取組を進めていく。

(2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ・宇治スタンダードの充実や、「やましろスタンダード」の活用を図る。特に小学校高学年においては、中学校へのつながりを意識し、中学校においては小学校とのつながりを意識した授業改善を進める。今年度は「対話的な学び」について重点を置き、夏季合同研修会や合同授業研究会において研

究を深めていく。

- ・教科連携加配(体育)による小学校6年生(南小倉小学校は5年も実施)の指導や、小学校高学年における教科担任制授業を推進する。
- ・「いしずえ学習」を活用し、基礎基本の徹底や「自主学習」「振り返り学習」を行う。
- ・教職員同士、教職員と児童・生徒、児童・生徒同士の「つながり」を深めることを大切にしながら、児童生徒が主体的に学習を行うことで、学力向上へと繋がる取組を進めていく。
- ・定期テストへの不安軽減を図るため、両小学校6年生が、定期テストの形式に合わせたテストを実施する。

(3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

- ・年間2回の研修会、合同授業研究会(1回)、フリー参観(2回)を行い、授業改善・授業システムの共有化を図り、自主学習の取組等による家庭学習の充実に取り組む。
- ・自主学習ノートの活用により、児童の学習への意欲を高め、学力の向上につなげる。
- ・西小倉中ブロック宇治学の指導計画に基づく活動を推進し、見直し、改善する。特に3年、6年の小小連携による宇治学の充実に努める。
- ・小小連携加配による、両小学校での音楽の授業を通して課題を発見し、改善する。
- ・「学力充実・向上部」「生徒指導部」「児童生徒交流部」の3部で、児童生徒の実態を交流し、課題の解決に向けた取組を進める。各部会で小中一貫の視点で取り組む内容を具体化していく。

① 学力充実・向上部

- 合同授業研究会において、授業改善の視点に立ち、「対話的な学び」をどのように授業に取り入れていくかに焦点を当てた授業研究会に向けて調整を図る。
- 各学校で行った各種診断テストの結果分析をもとに、小小間、小中間の課題を共通確認する。
- 家庭学習の充実に向けた取組の点検を行い、実践する。

② 生徒指導部

- 「授業規律の確立」「基本的な生活習慣(あいさつ運動等)」等の中から取組の重点化を図る。
- 学力充実部会、児童生徒交流部会との連携を図り、授業規律、ベル着、掃除の3つを取り組んでいく。
- 両小学校の非行防止教室も実施する。

③ 児童生徒交流部

- 下記の具体的な取組を確実にを行い、共通した取組の具体化と改善を進める。
- 児童会、生徒会の本部役員の交流をはじめ、協働できる取組を企画、実施する。(体験入学・部活体験・職場体験や地域行事での交流、児童会・生徒会合同の学習会、募金運動、あいさつ運動、小小連携としての児童交流等)
- 各小学校の「子どもの居場所づくり事業」への中学校生徒の参加を呼びかける。

(4) 家庭・地域社会との連携

- ・家庭学習の充実に繋がる意識アンケートを必要に応じて実施する。
- ・様々な取組を「一貫教育だより」や「学校だより」、HP等で発信する。
- ・各校の「一貫教育コーナー」(掲示板)を充実させる。
- ・3校合同地域懇談会を実施する。
- ・「小中一貫教育推進ニュース」を発行(小・中学校の保護者配布)する。

H29年度 小中一貫教育を推進する組織図

西小倉中ブロック小中一貫教育推進委員会

(校長、教頭、コーディネーター)

学力充実・向上

- ・授業研究・改善
- ・家庭学習

生徒指導

- (教育相談)
- (特別支援教育)

児童・生徒交流

校長部会
教頭部会
コーディネーター部会
養護教員部会
栄養・給食部会
事務職員部会

小中一貫教育目標

小中 9 年間を通して 地域と共に 子ども達の ゆたかな心と 確かな学力をはぐくむ
めざす子ども像

- ・自分の考えを 豊かな表現力で伝え合う子
- ・地域とつながり 思いやりの心を大切にする子
- ・健康に気をつけ 自らの目標に向かってがんばる子

【平成 28 年度の成果と課題】**〈成果〉**

- ・夏季合同研修会において、各種診断テストの結果、「見える化シート」の分析をもとに、児童、生徒の実態を全教職員で確認することができた。従来の知識伝達型の授業ではなく、教師と児童生徒、児童生徒同士がつながり、児童生徒が主体的に授業に参加することが学力向上につながることを確認できた。
- ・南小倉小学校での合同授業研究会、及び研修会、2 回のフリー参観を行なった。合同授業研後の分科会を通し情報を共有することで、学力充実にに向けた具体的な手立てを探ることができた。

〈課題〉

- ・3 校で共通理解できたことをより一層深め、各部会の取組を整理し実践する。
- ・各部担当コーディネーターを中心に、取組の充実や改善を進める。

【今年度の重点】

- ・「学力充実・向上部」「生徒指導部」「児童生徒交流部」の3部で、課題の解決に向けた具体的な取組を進める。
- ・学力向上において、「対話的な学び」に重点を置き、夏季合同研修会や合同授業研究会において小中のつながりを意識した研究を深める。

【今年度の取組】**推進組織**

- 月1回の推進会議の実施 取組内容確認、協議
- 各校校長、教頭が「学力充実・向上部」「生徒指導部」「児童生徒交流部」の3部会に所属し、各担当コーディネーターを中心とした課題の解決に向けた取組の推進

学力充実

- 自主学习ノートの活用及び取組の改善
- 家庭学習の手引きの配布
- 学力実態・分析、家庭学習の充実にに向けた取組の点検と実践
- 合同授業研に向けての調整

教職員研修

- 合同研修会
 - ・夏季合同研修会（8月21日）
 - ・合同授業研究会後の事後研
- 合同授業研究会
 - ・西小倉中（10月27日）
- フリー参観
 - ・南小倉中（5月18日）
 - ・西小倉小（11月30日）
- 各小中学校授業研究会等への教職員の参加

児童生徒交流

- 職場体験（6月13日・14日）
- 小中合同学習会・募金活動
 - ・合同学習会（12月） →各校での報告
 - ・募金活動
- あいさつ運動
- 宇治学学習交流（小小連携）
- 地域の行事に中学生が参加
- 児童交流における小小連携

家庭・地域連携

- 家庭学習の充実に繋がる意識アンケートを必要に応じて実施
- 「一貫教育だより」や「学校だより」、またHPIによる取組の発信
- 各校の「一貫教育コーナー」（掲示板）を充実
- 3校合同地域懇談会の実施
- 「小中一貫教育推進ニュース」の発行

小中のスムーズな接続のために

- 教科連携加配(体育)の中学校教員による小学校6年生の指導
- 小学校高学年における教科担任制授業を推進
- 西小倉中学校体験入学(11月21日)
 - ・6年生の中学校生活体験 (授業・部活動体験)
- 小中連絡会（5月30日・3月）

平成29年度 西宇治中学校ブロック ジョイントプラン

小中一貫教育推進計画

宇治市立西宇治中学校 校長 岩崎 正樹
宇治市立伊勢田小学校 校長 飯田 康生
宇治市立神 明小学校 校長 小山 行雄

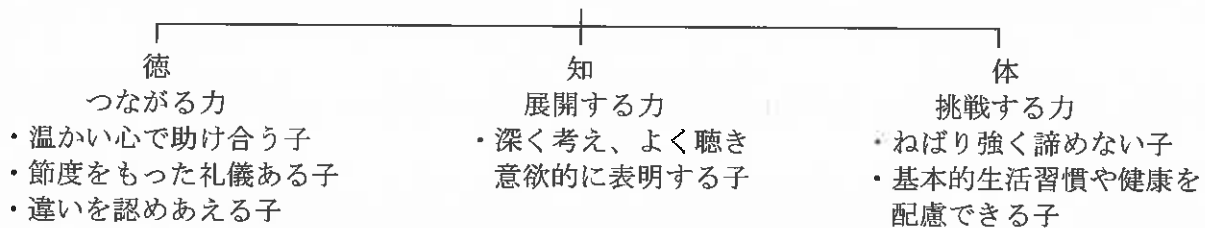
小中一貫教育コーディネーター(ラーニング、チーフに◎)

◎ 西宇治中学校 教諭 伊藤 恵
伊勢田小学校 教諭 瀬戸 純子
神 明小学校 教諭 小野寺 美栄子

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

N・I・S目標 「自立への学びと社会性の育成を推進し心豊かでたくましい人間を育てる」

目指す児童・生徒像



2 昨年度の成果と課題

- (1) 西宇治中学校ブロック小中一貫教育推進組織体制や計画・取組についての点検・評価の実施
成果 ○ ブロックの校長会及び教頭会を随時開催し組織的な活動にするとともに、コーディネーター会議を必要に応じて開き、連絡を密に取り合うことができた。
課題 ● 推進会議、領域3部会については、適切な連携の機会を十分に作れず、ブロック全体の取組の検討や成果の定期的な検証に課題が残った。
● 29年度に「道徳部会」を新設する方針である。
- (2) ブロック校長会の指導に基づいた推進組織体制の充実
成果 ○ 事業計画を概ね立案通り実施するとともに、コーディネーター間の連携により、各取組の改善や調整を行った。
○ 年間3回の合同研修会では、特に各教科主体で学習指導案作りから研究授業まで取り組み、それを基盤に「教科+特別支援」合わせて10科目の研究授業を西宇治中学校で実施することができた。さらに、事後研を通して、成果や次年度以降の検討課題を確認することもできた。
○ 児童生徒理解部では、特別支援部・教育相談部と連携しながら個に応じて取り組んだ。
課題 ● 教科連携教員が外国語教育の授業の中心となっていること、小学校における外国語の学習については小学校の教員が主体となっていくことなどから、教科連携教員や中学校英語科との連携及び事前の打ち合わせが、より重要になると考えられる。
- (3) 9年間を見通した系統的・継続的な学習指導並びに生徒指導についての研究・研修の充実
成果 ○ 学習指導に関しては、各教科部会で小中移行時の学習内容とその差異・格差克服の方策に重点を置いて、研修の推進に努めた。
○ 小6を対象に「春休みの宿題」作りに取り組んだ。
課題 ● 昨年度の研究授業や学力分析結果を基に、学力の充実を目指した学習指導法『だれにでもわかる授業や言葉』(ユニバーサルデザイン)の研修が必要である。
● 小小連携計画を円滑に推進するため、取組に幾つかの見直しや工夫が必要である。
- (4) 西宇治中学校ブロックにおける児童生徒の交流事業、体験活動の充実
成果 ○ 中2「職場体験学習」の小学校での実施、小6「中学校体験入学」の西宇治中学校での実施、中学生駅伝大会の小中合同練習等、機会を捉えて交流を深めた。

- 毎学期（年3回）、あいさつ運動を行い、児童会・生徒会相互の交流を深めた。
- (5) **保護者や地域に向けた目に見える取組の実施による積極的な情報発信の充実**
 成果 ○ 「N・I・Sだより」を毎学期1回発行し、各校の「学校だより」と併せて掲示する等、小中一貫教育活動の積極的な広報・情報発信を実施した。
- (6) **西宇治中学校ブロック各校独自の目標**
 成果 ○ 「宇治学」の「お茶会」交流を計画・実施することで、小小連携を図った。
 ○ 中学校合唱コンクールのビデオを、後日、小学校で鑑賞し交流に活かした。
 ○ 小6児童を中心に、教育相談・特別支援とのつながりを強化した。

3 平成29年度西中学校ブロック小中一貫教育取組の重点（各中学校ブロックにおける重点取組）

主体的・対話的で深い学び 及び 進路指導を見据えた学力向上の取組を基本に置く

- (1) 合同研修会各教科部会の充実と発展・公開授業研究会の実施
- (2) 領域3部会機能の活性化
- (3) 小小連携の充実（中学進学に向け、共通取組による実態改善）
- (4) 相互連携授業の充実

4 平成29年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

- (1) **中学校ブロック推進体制の充実**
- ・ ブロック校長会をはじめ各会議を適宜開催し内容の充実を図るとともに、推進計画が円滑に遂行されるよう、各会及び各部との交流、連携に努める。特に、コーディネーター会議や3部会代表者会等、計画の実践における実務的な会については、定例会を実現して取組全体の活性化を図る。
- (2) **系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実**
- ・ 第3回西宇治中学校ブロック小中一貫教育合同研修会（10月）の公開授業（会場：神明小学校）に向け、6・8月の2回にわたって3校合同の研修会を持ち、各教科の指導案作成及び指導方法等について研究・研修を実践する。
 - ・ 小学校入学から中学校卒業まで、9年間に及ぶ児童生徒の教育活動に見通しを持った学習指導の方法を研修する。
 - ・ 中学校ブロック作成の「宇治学」実施計画に基づいた学習を実践し、小中校間で交流する。
 - ・ 「いしずえ学習」として、西宇治中ブロック「家庭学習のてびき」活用の啓発をはじめ、中1ふり返りスタディーの活動、「宇治学」実施計画遂行等において、小中が連携し協働して進める。
- (3) **中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開**
- ・ 中2「職場体験学習」の場を小学校に設定しする取組（5月31日 6月1、2日）や、小学校児童への中学生の「部活動を生かした交流」（駅伝合同練習など）実施等々、相互の理解と交流を深める取組を積極的に実践する。
 - ・ 小6「中学校体験入学」（11月8日）を実施して、児童の小中格差に関わる不安を取り払い、スムーズに中学校生活へ移行できるよう支援する。
 - ・ 小中学校共同で「朝の挨拶運動」に取り組み、児童会・生徒会相互の交流を深める。
- (4) **家庭・地域社会との連携**
- ・ 広報誌発行（小中学校保護者、及び地域へ配布）の取組を定着させるとともに、小中一貫教育啓発掲示板の有効活用、各校学校だより（小5・小6・中1対象分）の他校への配布、各校HPでの広報の工夫等々、広く地域に発信し理解と支援を求める。
 - ・ 各地域行事（夏祭りや左義長など）、夏休みの「地域パトロール」、西宇治オープンフェスタ、中学校オープンスクール等々への積極的な参加を通して、地域との連携を図り支援や協働を得る。

ブロック小中一貫教育目標

N · I · S 目標

「自律への学びと社会性の育成を推進し心豊かでたくましい人間を育てる」

めざす子ども像

- 徳「つながる力」：・ 温かい心で助け合う子。・ 節度をもった礼儀ある子。
・ 違いを認め合える子。
- 知「展開する力」：・ 深く考え、よく聴き、意欲的に表明する子。
- 体「挑戦する力」：・ ねばり強く諦めない子。
・ 基本的生活習慣や健康を配慮できる子。

昨年度の成果と課題

成果

- 全体的に計画に沿った活動を展開することができ、一定の実践結果を得ることもできた。
- 学習指導についての研修において、小中移行時の差異・格差への対策を重点的に研究することができた。

課題

- 小・小連携計画の円滑な推進には、取組にいくつかの見直しを要する部分が残った。
- 外国語教育において、中学校英語科教師とのさらに綿密な連携を図る必要がある。

今年度の重点

重点

**主体的・対話的で深い学び 及び
進路指導を見据えた学力向上の取組を
基本に置く。**

- (1) 合同研修会各教科部会の充実と発展、公開授業研究会の実施。
- (2) 領域3部会機能の活性化。
- (3) 小小連携の充実（中学校進学に向け、共通組織による実態改善。）
- (4) 相互連携授業の充実。

今年度の取組

- (1) 中学校ブロック推進体制の充実
 - ・ ブロック校長会をはじめ各会議を適宜開催し内容の充実を図るとともに、推進計画が円滑に遂行されるよう、各会及び各部との交流、連携に努める。特に、コーディネーター会議や3部会代表者会等、計画の実践における実務的な会については、定例会を実現して取組全体の活性化を図る。
- (2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
 - ・ 第3回西宇治中学校ブロック小中一貫教育合同研修会（10月）の公開授業（会場：神明小学校）に向け、6・8月の2回にわたって3校合同の研修会を持ち、各教科の指導案作成及び指導方法等について研究や研修を実践する。
 - ・ 小学校入学から中学校卒業まで、9年間に及ぶ児童生徒の教育活動に見通しを持った学習指導の方法を研修する。
 - ・ 中学校ブロック作成の「宇治学」実施計画に基づいた学習を実践し、小中学校間で交流する。
 - ・ 「いしずえ学習」として、西宇治中ブロック「家庭学習のてびき」活用の啓発をはじめ、中1ふり返りスタディーの活動、「宇治学」実施計画遂行等において、小中が連携し協働して進める。
- (3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
 - ・ 中2「職場体験学習」の場を小学校に設定しする取組（5月31日 6月1、2日）や、小学校児童への中学生の「部活動を生かした交流」（駅伝合同練習など）実施等々、相互の理解と交流を深める取組を積極的に実践する。
 - ・ 小6「中学校体験入学」（11月8日）を実施して、児童の小中格差に関わる不安を取り払い、スムーズに中学校生活へ移行できるよう支援する。
 - ・ 小中学校共同で「朝の挨拶運動」に取り組み、児童会・生徒会相互の交流を深める。
- (4) 家庭・地域社会との連携
 - ・ 広報誌発行（小中学校保護者、及び地域へ配布）の取組を定着させるとともに、小中一貫教育啓発掲示板の有効活用、各校学校だより（小5・小6・中1対象分）の他校への配布、各校HPでの広報の工夫等々、広く地域に発信し理解と支援を求める。
 - ・ 各地域行事（夏祭りや左義長など）、夏休みの「地域パトロール」、西宇治オープンフェスタ、中学校オープンスクール等々への積極的な参加を通して、地域との連携を図り支援や協働を得る。

平成29年度 南宇治中学校ブロック ジョイントプラン

－ 小中一貫教育推進計画 －

宇治市立南宇治中学校 校長 秋元 恒志
 宇治市立西大久保小学校 校長 林 文康
 宇治市立平盛小学校 校長 原田 繁

小中一貫教育コーディネーター

◎(南宇治)中学校 氏名 教諭 土井 加津美
 (西大久保)小学校 氏名 教諭 中村 亘宏
 (平盛)小学校 氏名 教諭 向井 毅

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

<南宇治中学校区小中一貫教育目標>

「夢や希望を持ち、未来をたくましく生きぬく児童生徒の育成」

<9年間で育てたい力>

- (1) 自ら学び、共に学び合い、真理を探究する力
 - ① 授業規律の確立と基礎・基本の徹底
 - ② 言語活動の充実
 - ③ 学習意欲の向上
- (2) 豊かな心を持ち、人間関係を築く力
 - ① 集団の中での自己存在感の確立
 - ② 共感的人間関係を基盤とした教育活動の推進
 - ③ 思いやりや心づかいがあふれる実践的態度の育成
- (3) 生命を大切にし、たくましく生きる力
 - ① 目標に向かって挑戦する意欲の高揚
 - ② くじけず、着実に歩む強い心の育成
 - ③ 自分や仲間の生命を尊重する態度の育成
- (4) 未来に向けた自分の生き方を求める力
 - ① 自分の良さや適性を伸ばし、自尊感情を高める取組の推進
 - ② 自分の目標を定めるための体験や学びの充実
 - ③ 児童・生徒の夢をはぐくむ学校・家庭・地域の連携

2 昨年度の成果と課題

- ・年間計画に基づいて、児童・生徒の交流の機会を数多く持ち、小中間のつながりを深めることができた。
- ・小小連携を意識した取組が実施できた。
- ・教職員研修もが実りあるものとなった。
- ・学力の向上をいかに進めていくかが課題である。

3 平成29年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点(各中学校ブロックにおける重点取組)

- (1) 児童生徒交流の取組の充実を図り、学力向上の方向性を探る。
- (2) ことばの力、コミュニケーション能力の育成を図る。

4 平成29年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

- (1) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実
 - ・ブロック校長会をふまえ、コーディネーター会議及び推進委員会の計画的実施
 - ・ブロック校長会の指導に基づく推進計画の立案・改善充実
 - ・コーディネーター会議及び推進委員会等における教科連携加配教員の効果的な活用
 - ・チーフコーディネーターの定期的な学校訪問
- (2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
 - ・公開授業参観の実施
 - ・事前研・事後研を含む授業研究の実施
 - ・授業規律の共有
 - ・小中教員が協働で指導案を作成し、ティームティーチング授業を実施
 - ・外国語活動英語部、学力充実部及び連携授業（理科）の年間を通した交流、授業研究、学力分析
 - ・「宇治学」小小連携授業の実施
- (3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
 - ・小学6年生の授業体験・部活動体験の実施
 - ・中学生による小学生指導支援
 - ・小中合同地域清掃ボランティア活動の実施
 - ・児童会生徒会合同会議の実施
 - ・児童会生徒会合同あいさつ運動の実施
 - ・両小学校での帰国外国人児童生徒理解学習の実施
 - ・食育の取組の実施
- (4) 家庭・地域社会との連携
 - ・他校に学校だよりを配布
 - ・地域に学校だよりを配布
 - ・「小中一貫教育だより」を校区の保護者対象に年3回発行
 - ・小中合同あいさつ運動への保護者の参加

南宇治中学校ブロック小中一貫**めざすこども像**

夢や希望を持ち、未来をたくましく生きぬく児童生徒の育成

成果と課題

- ・年間計画に基づいて、児童・生徒の交流を数多く持ち、小中間のつながりを深めることができた。
- ・小小連携を意識した取組が実施でき、教職員研修も実りあるものとなった。
- ・学力の向上をいかに進めていくかが課題である。

今年度の重点

- (1) 児童生徒交流の取組の充実を図り学力向上の方向性を探る。
- (2) ことばの力、コミュニケーション能力の育成を図る。

今年度の取組**(1) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実**

- ・ブロック校長会をふまえ、コーディネーター会議及び推進委員会の計画的実施
- ・ブロック校長会の指導に基づく推進計画の立案・改善充実
- ・コーディネーター会議及び推進委員会等における教科連携加配教員の効果的な活用
- ・チーフコーディネーターの定期的な学校訪問

(2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ・公開授業参観の実施
- ・事前研・事後研を含む授業研究の実施
- ・授業規律の共有
- ・小中教員が協働で指導案を作成し、チームティーチング授業を実施
- ・外国語活動英語部、学力充実部及び連携授業（理科）の年間を通じた交流、授業研究、学力分析
- ・「宇治学」小小連携授業の実施

(3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

- ・小学 6 年生の授業体験・部活動体験の実施
- ・中学生による小学生指導支援
- ・小中合同地域清掃ボランティア活動の実施
- ・児童会生徒会合同会議の実施
- ・児童会生徒会合同あいさつ運動の実施
- ・両小学校での帰国外国人児童生徒理解学習の実施
- ・食育の取組の実施

(4) 家庭・地域社会との連携

- ・他校に学校だよりを配布
- ・地域に学校だよりを配布
- ・「小中一貫教育だより」を校区の保護者対象に年 3 回発行
- ・小中合同あいさつ運動への保護者の参加

平成29年度 広野中学校ブロック ジョイントプラン
— 小中一貫教育推進計画 —

宇治市立 宇治市立 宇治市立	広野 大久保 大開	中学校 小学校 小学校	校長 校長 校長	川嶋 松居 村田	浩司 博之 正直
----------------------	-----------------	-------------------	----------------	----------------	----------------

小中一貫教育コーディネーター					
広野中学校	職名	教諭	氏名	小林 哲也	
大久保小学校	職名	教諭	氏名	葛山 雅◎	
大開小学校	職名	教諭	氏名	塚原 尚子	

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

<教育目標>

夢や希望を持って未来を切り拓ける児童生徒の育成

<9年間で育てたい力（めざす児童生徒像）>

自ら学び考える力 豊かな人間関係を築ける力
 健やかな体で粘り強くやり抜く力 自分の生き方を求めていく力

2 昨年度の成果と課題

<成果>

- ・児童会、生徒会を中心に多彩な取組を進めることができた。
- ・小中一貫教育を支える小小連携に力を入れ取組を進めることができた。
- ・3校の授業研究会へ参加し合い、各校での「伝え合う力」を育てる授業の研究に生かすことができた。
- ・小学校での児童の学習や生活の様子を知る機会として、中学校教員による小学校体験研修を行うことができた。
- ・3校合同での地域懇談会や学校評議委員会を開催するなど、学校、家庭、地域で連携・協力しながら小中一貫教育を進めることができた。
- ・3校の行事予定表や HOOP（宇治ひろの学園小中一貫だより）を作成して家庭や地域に配付し、小中一貫教育について積極的に情報発信することができた。
- ・他地域からの視察を受け入れ、本学園の小中一貫教育の取組を広めることができた。

<課題>

- ・取組が形骸化しないよう、取組の意味や効果を再確認し、教職員の意識や日常的な取組を定着させる。
- ・小小連携を更に充実させて有効活用し、無理なく効果的な小中一貫教育の取組を進めていく。
- ・中学校ブロックとして、学力充実に焦点化した取組をさらに推進する。
- ・家庭、地域に対して「目に見える取組」を更に展開していく。

3 平成29年度中学校ブロック小中一貫教育の重点（中学校ブロックにおける重点取組）

◎今までの研究の成果・課題を整理して、研究内容・取組の再確認、共通理解を深めることにより、より効果的に取組を進める。

○宇治ひろの学園小中一貫教育の円滑な運営及び推進

- ・年間の計画（5月：総会 8月：合同研修会 3月：各校でまとめ）
- ・伝え合う力の育成のための教育活動の取組
- ・2小1中で協力した授業研究（小小の連携、小中の連携）
- ・児童生徒の交流・小学校教員と中学校教員の交流の充実
- ・各部会の取組の再確認と共通理解を深めることによる効果的な取組の推進

○学力向上に向けての取組

- ・宇治ひろの学園 共通問題（算数）の作成・実施
- ・中学校定期テスト不安軽減の取組（小学校6年生で実施）

○小小連携の充実

○保護者、地域への情報発信と啓発の充実

4 平成29年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1)中学校ブロック推進体制の充実

- ・ブロック校長会議(学校運営部会)の実施(月1回以上)及び教頭部会の開催
- ・コーディネーター会議(事務局部会)の定期的な実施(月1回以上)
- ・学園児童生徒の学力充実を目指し、各部会の組織的な活動の実施

(2)系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ・教員の定期的な打合せの時間の確保
- ・各部会の校種をこえた組織的な活動の実施
- ・大久保小と大開小の小小連携の計画及び実施(授業研への参加・交流)
- ・3校での夏季合同研修の実施
- ・小6の中学校体験学習での小中教員の合同での授業
- ・中学校教員の小学校体験研修及び小学校教員の中学校体験研修
- ・小学校教員の中学校部活動見学
- ・生徒指導交流と連携の充実(年間3回:学期1回)
- ・中学校定期テスト不安軽減の取組(2学期以降3回程度)

(3)中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

- ・大久保小と大開小の小小連携の計画及び実施(授業研への参加・交流)
- ・全国学力学習状況調査や京都府学力診断テスト、及びブロック独自で取り組むCRTテストの結果の分析と課題解決に向けた取組の検討及び実施
- ・宇治ひろの学園共通問題(小6算数)の作成・実施
- ・よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す「宇治学」の充実
- ・コーディネーター会議(事務局会議)の定期的な実施(月1回以上)
- ・児童生徒理解部会、特別支援教育部会の合同研修の計画及び実施
- ・中学校ブロック独自の生徒指導カルテの作成・引継
- ・HOT-MEETING(3校合同児童生徒会)の実施(年3回程度)
- ・福島ひまわりプロジェクトの実施
- ・3校児童生徒会合同での取組の充実(あいさつ運動、エコキャップ、プルトップの回収)
- ・中学生が小学校低学年への絵本の読み聞かせ
- ・小学校クラブへのアシスタントティーチャーとしての参加
- ・小6の中学校体験学習での小小交流事業
- ・中学1年生による2小学校1年生への読み聞かせ(紙芝居)

(4)家庭・地域社会との連携

- ・H00P(宇治ひろの学園小中一貫教育だより)の保護者・地域への全戸配付
- ・各校の学校だよりでの紹介やホームページの活用
- ・各校での行事を活用した積極的な情報発信
- ・3校合同の地域懇談会や学校評議委員会の計画及び実施
- ・小6の中学校体験学習の保護者参観
- ・大開っ子くらぶ(土曜日の活用事業)での広中生徒の参加

ブロック小中一貫教育目標

<教育目標>

夢や希望を持って未来を切り拓ける児童生徒の育成

<9年間で育てたい力(めざす児童生徒像)>

自ら学び考える力 豊かな人間関係を築ける力

昨年度の成果と課題

<成果>

- ・児童会、生徒会を中心に多彩な取組を進めることができた。
- ・小中一貫教育を支える小小連携に力を入れ取組を進めることができた。
- ・3校の授業研究会へ参加し合い、各校での「伝え合う力」を育てる授業の研究に生かすことができた。
- ・小学校での児童の学習や生活の様子を知る機会として、中学校教員による小学校体験研修を行うことができた。
- ・3校合同での地域懇談会やPTA・育友会懇談会を開催するなど、学校、家庭、地域で連携・協力しながら小中一貫教育を進めることができた。
- ・3校の行事予定表やH00P(宇治ひろの学園小中一貫だより)を作成して家庭や地域に配付し、小中一貫教育について積極的に情報発信することができた。
- ・他地域からの視察を受け入れ、本学園の小中一貫教育の取組を広めることができた。

<課題>

- ・取組の意味や効果を再確認し、教職員の意識や日常的な取組を定着させる。
- ・小小連携を更に充実させて有効活用し、無理なく効果的な小中一貫教育の取組を進めていく。
- ・中学校ブロックとして、学力充実に焦点化した取組をさらに推進する。
- ・家庭、地域に対して「目に見える取組」を更に展開していく。

今年度の重点

- 宇治ひろの学園小中一貫教育の円滑な運営及び推進
- ・年間の計画(5月:総会 8月:合同研修会 3月:各校でまとめ)
- ・伝え合う力の育成のための取組
- ・2小1中で協力した授業研究(小小の連携、小中の連携)
- ・児童生徒の交流・小学校教員と中学校教員の交流の充実
- ・各部会の取組の再確認と共通理解を深めることによる効果的な取組の推進
- 学力向上に向けての取組
- ・宇治ひろの学園共通問題(算数の作成・実施)
- ・中学校定期テスト不安軽減の取組(小学校6年生で実施)
- ・小中一貫連携教員の活用
- 小小連携の充実
- 保護者、地域への情報発信と啓発の充実

今年度の取組**★児童生徒が交流する取組**

- ・HOT-MEETING(3校合同児童生徒会)
- ・HOT-STUDY(中学校 新入生半日入学)
- ・3校でのエコキャップ・プルタブの回収
- ・クラブアシスタントティーチャー(中学生の小学校クラブへの参加)
- ・中学生による小学生への紙芝居の読み聞かせ
- ・福島ひまわり里親プロジェクトへの参加 他

★学力充実の取組

- ・板書カード・授業システム・家庭学習の手引き
- ・全国学力・学習状況調査、府学力診断テスト、CRTテストの結果分析と課題の共通理解
- ・小学校高学年での「教科担当制」
- ・中1振りスタへの小学校教員の参加
- ・宇治ひろの学園共通問題(算数)の作成・実施 他

★教職員が交流・共同研究する取組

- ・宇治ひろの学園研究会の開催(5月総会、8月夏季合同研修会)
- ・2小学校教員による小小交流の充実
- ・各校授業研究会への参加
- ・小学校教員による中学校の部活動見学
- ・中学校教員による小学校体験研修 他

★保護者・地域と交流する取組

- ・広野中学校吹奏楽部定期演奏会
in大久保小学校
「オータムメモリーコンサート」の開催
- ・3校合同地域懇談会の開催
- ・3校合同PTA・育友会懇談会の開催
- ・子どもの主張大会(大久保学区青少協主催) 他

平成29年度 東宇治中学校ブロック ジョイントプラン

－ 小中一貫教育推進計画 －

宇治市立東宇治中学校	校長	田中	康
宇治市立岡屋小学校	校長	市橋	公也
宇治市立南部小学校	校長	筒井	眞代
宇治市立三室戸小学校	校長	土屋	満

小中一貫教育コーディネーター

◎ 南部小学校	氏名	小谷	実
東宇治中学校	氏名	松野	直記
岡屋小学校	氏名	丸尾	章弘
三室戸小学校	氏名	甲斐	聖人

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

教育目標

「命を輝かす人間」

めざす児童・生徒像

「自ら学び学習する児童・生徒」
 「思いやりのある児童・生徒」
 「たくましく生きる児童・生徒」
 「健康や安全を考える児童・生徒」

2 昨年度の成果と課題

- 本ブロック児童・生徒の実態を踏まえた、授業や指導を通した小中合同の研究・取組を進めることができた。
- 様々な形式での児童・生徒交流や地域・家庭連携のための情報発信・取組を積極的に進めることができた。
- ブロック校長会議・ブロック教頭会議のリーダーシップのもと、コーディネーター会議で調整を図りながら、様々な取組を推進することができた。
- 児童・生徒を「命を輝かす人間」に成長させるために、学力課題や生活課題を一層明確にし、小中一貫教育の視点で、課題解決に向けた取組を進める必要がある。

3 平成29年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点（各中学校ブロックにおける重点取組）

- これまでの小中連携・小中一貫教育の成果と課題を踏まえた取組を推進しながら、小中一貫教育の基本である「義務教育9年間で、確かな学力と生きる力を身に付けさせるための系統的・統一的な指導を実現する」という視点で、取組の点検・評価・改善を図る。
- 「ブロック校長会議」の指導のもと、「ブロック教頭会議」を核とした「ブロック運営委員会」を推進の要とした推進組織体制を確立し、「コーディネーター会議」や「推進3部会」、合同研究授業に向けた「授業研究部会」で、様々な取組を具現化し、ブロックの小中一貫教育を推進する。
- 授業公開・合同研究授業を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を積極的に進める。また、その研究成果を、日常の授業や小中一貫教育の様々な取組に反映させ、児童生徒の「ことばの力」や「主体的・協働的に学ぶ力」を高め、学力や生きる力の充実・向上を図る。
- 地域ぐるみで児童生徒を育て、高める視点を持ち、地域・PTA(育友会)行事への参画や家庭・地域への情報発信、連携強化を積極的に進める。

4 平成29年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 中学校ブロック推進体制の充実

ブロック校長会議の指導のもと、「ブロック教頭会議」を核とした「ブロック運営委員会」を推進の要とした推進組織体制を確立し、「コーディネーター会議」や「推進3部会」、合同研究授業に向けた「授業研究部会」で、様々な取組を具現化し、ブロックの小中一貫教育を推進する。

その中で、ブロック校長会議やブロック教頭会議とコーディネーター会議との連携を強化し、小中一貫教育を推進する機能的な体制を追求する。

(2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

年間を通して、小中合同研修会(合同研究授業を含む)や推進3部会(児童生徒交流部・児童生徒理解部・児童生徒学力充実部)で、本ブロックの児童生徒の学力・生活課題に迫るテーマや小中の接続の課題について研修や取組を進め、系統的・継続的な指導の充実を図る。特に、授業公開・合同研究授業を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を積極的に進め、その研究成果を、日常の授業や小中一貫教育の様々な取組に反映させ、児童生徒の「ことばの力」や「主体的・協働的に学ぶ力」を高め、学力や生きる力の充実・向上を図る。また、中1ギャップを解消するための取組についても積極的に進める。

(3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

3小1中での児童生徒交流や1小1中での児童生徒交流、小中一貫教育の基盤となる小小連携の取組、地域・PTA(育友会)と連携し地域ぐるみで進める取組など、様々な形態を工夫しながら、小中一貫教育を総合的に推進する。

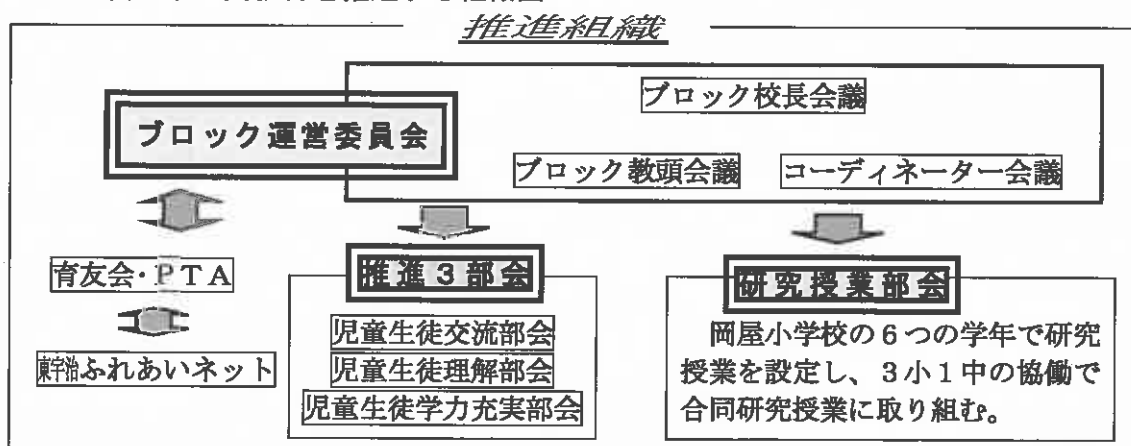
また、「宇治学」について、副読本の活用を進めながら、本ブロック3小1中での7年間の系統的指導の在り方について検討を進める。

(4) 家庭・地域社会との連携

定期的に小中一貫教育だよりを配布したり、各校の学校便り等で小中一貫教育の取組を広報したり、情報発信を積極的に進める。また、地域ぐるみで児童生徒を育て、高める視点を持ち、地域・PTA(育友会)行事へ積極的に参画する。

家庭との連携強化の切り口として、ブロック共通の「家庭学習の手引き」(保存版)を配布し、積極的に活用する。

5 平成29年度小中一貫教育を推進する組織図



※役割分担

ブロック校長会議	ブロック小中一貫教育推進の方向性の提示
ブロック教頭会議	ブロック小中一貫教育の推進・地域・PTA育友会との連携
コーディネーター会議	小中一貫教育推進に関わる調整・教育課程、年間計画、取組の企画・運営
児童生徒交流部会	児童生徒交流事業の推進
児童生徒理解部会	生徒指導、教育相談、特別支援教育に関わる研究及び取組の推進
児童生徒学力充実部会	学力の充実・向上に関わる研究及び取組の推進

小中一貫教育の構想図

教育目標 「命を輝かす人間」

めざす児童・生徒像 「自ら学び学習する児童・生徒」 「思いやりのある児童・生徒」
「たくましく生きる児童・生徒」 「健康や安全を考える児童・生徒」

昨年度の成果と課題

- 本ブロック児童・生徒の実態を踏まえ、授業や指導を通した小中合同の研究・取組を進めることができた。
- 様々な形式での児童・生徒交流や地域・家庭連携のための情報発信・取組を積極的に進めることができた。
- ブロック校長会議・ブロック教頭会議のリーダーシップのもと、コーディネーター会議で調整を図りながら、様々な取組を推進することができた。
- 児童・生徒の学力課題や生活課題を一層明確にし、小中一貫教育の視点で、課題解決に向けた取組を進める必要がある。

今年度の重点

- 小中一貫教育実施5年間の成果と課題を踏まえた取組を推進しながら、小中一貫教育の基本である「義務教育9年間で、将来にわたって生きて働く学力や生きる力を身に付けさせるための系統的・統一的な指導を実現する」という視点で、日々の指導の充実を図りながら、取組の点検・評価・改善を進める。
- 「ブロック校長会議」の指導のもと、「ブロック教頭会議」を核とした「ブロック運営委員会」を推進の要とした推進組織体制を確立し、「コーディネーター会議」や「推進3部会」、合同研究授業に向けた「授業研究部会」で、様々な取組を具現化し、ブロックの小中一貫教育を推進する。
- 授業公開・合同研究授業を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を積極的に進める。また、その研究成果を、日常の授業や小中一貫教育の様々な取組に反映させ、児童生徒の「ことばの力」や「主体的・協働的に学ぶ力」を高め、学力や生きる力の充実・向上を図る。
- 地域ぐるみで児童生徒を育て、高める視点を持ち、地域・PTA(育友会)行事への参画や家庭・地域への情報発信、連携強化を積極的に進める。

今年度の取組

教職員研修

- 小中合同研修会(5/29・8/23・11/16)
- 小中合同研究授業(11/16 会場:岡屋小)
- 相互授業参観
 - ・小学校から中学校授業参観(5/29)
 - ・中学校から小学校授業参観(6/2)
- 教職員広報の発行
- 4校学校便りを教職員へ配布
- 3小合同研修会+合同学年会(8/23)
- 中学1年ふりスタへの小学校教員支援
- 東宇治中ブロック児童生徒の学力分析

児童・生徒交流

- 小学6年生の中学校体験入学(11/8)
- 中学2年生の小学校での職場体験(5/25・26)
- エコキャップ回収運動(セレモニー2/14)
- 中学生の美術作品巡回展示(2学期)
- 花植ボランティアによるプランター贈呈
- 地域行事での交流

小中スムーズな接続のために

- スクールライフサポートブック配布(小学6年)
- 先スタ(中学入学前の学習)の配布(小学6年)
- 小学6年生の中学校体験入学(11/8)
- 小中連携教員による外国語活動指導(小学6年)
- 東宇治中入学保護者説明会(12/1)
- 小中連絡会(5/15・12月・2月)
- 中学校学校便りを小学6年生に配布
- 授業で使用する板書カードの統一化
- 定期テスト対策(小学6年)
- 「宇治学」カリキュラムの検討

家庭・地域との連携

- 小中一貫教育便りの発行
- 「家庭学習の手引き」(保存版)の配布
- PTA・育友会 保護者合同研修会(2学期)
- 小中一貫教育コーナー(掲示板)の設置
- 小中一貫教育リーフレットの配布(小学1年・転入生)
- 「おおばくまつり」(東宇治ふれあいネット)

小中一貫教育推進に関わって

- ブロック校長会議・ブロック教頭会議とコーディネーター会議の連携を強化する中で、取組の方向性や具体的取組内容を明確し、全教職員の共通理解を図りながら、小中一貫教育を推進する。
- ブロック運営委員会・ブロック校長会議・ブロック教頭会・コーディネーター会議・推進3部会・研究授業部会の役割を明確にし、効率的・機能的な組織体制を確立する。

平成29年度 木幡中学校ブロック ジョイントプラン

— 小中一貫教育推進計画 —

宇治市立木幡中学校	校長 森 義明
宇治市立御蔵山小学校	校長 芦田 定雄
宇治市立木幡小学校	校長 八木 章
宇治市立笠取小学校	校長 角田 泰志
宇治市立笠取第二小学校	校長 岩井 浩

小中一貫教育コーディネーター

◎木幡	中学校	氏名	渥美 善之
木幡	中学校	氏名	長谷川 良
御蔵山	小学校	氏名	立原 隆弥
木幡	小学校	氏名	西村 浩
笠取	小学校	氏名	水田 利枝
笠取第二	小学校	氏名	石田 博之

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

木幡中ブロック教育目標

「故郷（ふるさと）で夢や希望をはぐくみ、未来を切り拓く児童生徒」

2 昨年度の成果と課題

（成果）

- ・小中一貫教育の各取組は、予定通り実施出来た。
- ・研究授業の方向性を全教科で統一し実施した。どの教科もグループ活動を取り入れた研究授業がなされ、工夫や特色ある授業が展開された。
- ・教科領域部会（8部会）と教科外連絡会（6部会）に分け、教科と領域の重複課題をなくした。
- ・全教職員が一堂に会し、各部会、連絡会で具体的な話し合いと研究を行うことができた。
- ・情報発信は、定期的に各学校の特色や時期に応じた内容を盛り込んだものを作成配布し定着している。岡屋小の情報、記事は、今年は毎号に掲載した。

（課題）

- ・T₁とT₂との打合せについて難しい教科もあった。また、T・Tでの授業形態そのものも、その後、小中に持ち帰っての活用に繋がっているとは限らない現状がある。
- ・研修会における、研究授業の取組方法を検討する必要がある。また、小中の児童・生徒交流は実施内容に再考を要する。
- ・中学生陸上部員による、木幡小、御蔵山小駅伝指導の取組が日程調整の遅れから実施出来なかった。

3 平成29年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点（各中学校ブロックにおける重点取組）

- ・木幡中ブロック校長会の指導のもと、教頭の役割を明確にする中、チーフコーディネーターを要とし、組織的な取組を行う。
- ・研究の方向性に沿って取組計画を立て、教職員や児童生徒の交流事業や合同事業を進める。
- ・音楽図工美術技家をつとし、総合を加えた8つの教科領域部会で、授業研究を進める。
- ・6つの教科外連絡会で、小中の系統的、継続的な指導を進める。
- ・小中一貫だよりとHPを活用し、児童生徒、保護者、教職員、地域への啓発活動を進める。
- ・合同研修会では、各校の重点研究を交流し、取り組みを理解し合うことで小中の教職員間の連携を強める。
- ・学力向上のために話し合い活動を取り入れた授業を木幡ブロックで進める。

4 平成29年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実

ブロック校長会、教頭会と小中一貫教育推進委員会を常にリンクさせ、計画的に取組を推進する。8教科領域部会および6教科外連絡会の定例化を図り特色のある取組を推進する。

(2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ・ 中学入学時の不安軽減へ向けての様々な取組を行う。
- ・ 中学校英語教員による全小学校での授業（通年、毎週）を実施する。
- ・ へき地校を含んだ小小連携授業・交流学习を実施する。
- ・ 合同研修会を通して小中教員が連携し、児童理解につながる研究授業を行う。（11月15日）
- ・ 小中が継続的に一貫した目標で取り組む事で小中のなめらかな接続を図る。
- ・ 各小学校において積極的に教科担当制を取り入れる。
- ・ 合同研修会を通して学力向上のための授業改善を図る。

(3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

① 中学校ブロック小中一貫教育推進組織体制や計画・取組についての点検・評価の実施

- ・ 部会ごとのアンケートをもとに推進委員会の中で総括する。その中で、成果や課題を明らかにし次年度に有効な方向を探る。

② 中学校ブロックにおける教職員の研究・研修の充実

- ・ 全教職員が、教科領域部会または教科外部会に所属する。
- ・ 各校の学校行事の計画段階で小中一貫教育を意識した取組を計画的、有効的に組み込む。
- ・ 研究の具体的な方向性を掲げる。
どの教科にも通じる「学び合い」「ことばの力」を大切に授業にしていける。
- ・ 研究授業に向けて取り組む中で、小中の学習指導の流れをお互いが認識し、系統的・継続的な指導を行う。
- ・ 年間3回の小中教員の合同研修会（6月14日、8月21日、11月15日）を柱にする。
その中で各部長を中心とした教科領域部会を持ち、少ない機会であっても有効に活用する。
- ・ 8月21日の研修会では、全体会で各学校の重点研究を発表し合い、小中での教育活動の連携を図る。

③ 中学校ブロックにおける児童生徒の交流事業、体験活動の充実

ア 小学6年生の中学校への半日体験入学

11月8日（水） 歓迎行事の取り組み、部活動の体験

イ 中学生の部活動単位での交流

- ・ 陸上部による駅伝指導
- ・ 吹奏楽部による小学校での発表会
- ・ 美術部による小学校作品展への展示発表

ウ 児童会、生徒会の交流

- ・ 小学校児童会本部役員会と中学校生徒会本部役員会が共に交流する機会を設定する。

エ 三校交流による小小連携の取り組み

6月27日（火） 木幡小、笠取小、笠取第二小

11月14日（火） 御蔵山小、笠取小、笠取第二小

(4) 家庭・地域社会との連携

- ・ ふれあいフェスタ、おもろいやんか木幡への参加。
- ・ 「小中一貫教育通信」（保護者、児童生徒向け）を定期発行する。
- ・ 中学校の「生活だより」（毎月発行）を全6年生（笠取小・笠取二小は5・6年生）に配布する。
- ・ ホームページ等の活用。
- ・ 11月10日（金）新入生保護者説明会。

ブロック小中一貫

めざす子ども像 故郷（ふるさと）で夢や希望をはぐくみ、未来を切り拓く児童・生徒

昨年度の成果と課題

(成果)

- ・小中一貫教育の各取組は、予定通り実施出来た。
- ・研究授業の方向性を全教科で統一し実施した。どの教科もグループ活動を取り入れた研究授業がなされ、工夫や特色ある授業が展開された。
- ・教科領域部会（8部会）と教科外連絡会（6連絡会）に分け、教科と領域の重複課題をなくした。
- ・全教職員が一堂に会し、各部会、連絡会で具体的な話し合いと研究を行うことができた。
- ・情報発信は、定期的に各学校の特色や時期に応じた内容を盛り込んだものを作成配布し定着している。岡屋小の情報、記事は、今年は毎号に掲載した。

(課題)

- ・T₁とT₂との打合せについて難しい教科もあった。また、T・Tでの授業形態そのものも、その後、小中に持ち帰っての活用に繋がっているとは限らない現状がある。
- ・研修会における、研究授業の取組方法を検討する必要がある。また、小中の児童・生徒交流は実施内容に再考を要する。
- ・中学生陸上部員による、木幡小、御蔵山小駅伝指導の取組が日程調整の遅れから実施出来なかった。

今年度の重点

- ・木幡中ブロック校長会の指導のもと、教頭の役割を明確にする中、チームコーディネーターを要とし、組織的な取組を行う。
- ・研究の方向性に沿って取組計画を立て、教職員や児童生徒の交流事業や合同事業を進める。
- ・音楽図工美術技家をつとし、総合を加えた8つの教科領域部会で、授業研究を進める。
- ・6つの教科外連絡会で、小中の系統的、継続的な指導を進める。
- ・小中一貫だよりとHPを活用し、児童生徒、保護者、教職員、地域への啓発活動を進める。
- ・合同研修会では、各校の重点研究を交流し、取組みを理解し合うことで小中の教職員間の連携を強める。
- ・学力向上のために話し合い活動を取り入れた授業を木幡ブロックで進める。

今年度の取組

(1) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実

ブロック校長会、教頭会と小中一貫教育推進委員会を常にリンクさせ、計画的に取組を推進する。8教科領域部会および6教科外連絡会の定例化を図り特色のある取組を推進する。

(2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ・中学入学時の不安軽減へ向けての様々な取組を行う。
- ・中学校英語教員による全小学校での授業（通年、毎週）を実施する。
- ・へき地校を含んだ小小連携授業・交流学习を実施する。
- ・合同研修会を通して小中教員が連携し、児童理解につながる研究授業を行う。（11月15日）
- ・小中が継続的に一貫した目標で取り組む事で小中のなめらかな接続を図る。
- ・各小学校において積極的に教科担当制を取り入れる。
- ・合同研修会を通して学力向上のための授業改善を図る。

(3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

①中学校ブロック小中一貫教育推進組織体制や計画・取組についての点検・評価の実施

- ・部会ごとのアンケートをもとに推進委員会の中で総括する。その中で、成果や課題を明らかにし次年度に有効な方向を探る。

②中学校ブロックにおける教職員の研究・研修の充実

- ・全教職員が、教科領域部会または教科外部会に所属する。
- ・各校の学校行事の計画段階で小中一貫教育を意識した取組を計画的、有効的に組み込む。
- ・研究の具体的な方向性を掲げる。

どの教科にも通じる「学び合い」「ことばの力」を大切にしたい授業にしていく。

- ・研究授業に向けて取り組む中で、小中の学習指導の流れをお互いが認識し、系統的・継

続的な指導を行う。

- ・年間3回の小中教員の合同研修会（6月14日、8月21日、11月15日）を柱にする。
その中で各部長を中心とした教科領域部会を持ち、少ない機会であっても有効に活用する。
- ・8月21日の研修会では、全体会で各学校の重点研究を発表し合い、小中での教育活動の連携を図る。

③中学校ブロックにおける児童生徒の交流事業、体験活動の充実

ア 小学6年生の中学校への半日体験入学

11月8日（水） 歓迎行事の取り組み、部活動の体験

イ 中学生の部活動単位での交流

- ・陸上部による駅伝指導
- ・吹奏楽部による小学校での発表会
- ・美術部による小学校作品展への展示発表

ウ 児童会、生徒会の交流

- ・小学校児童会本部役員会と中学校生徒会本部役員会が共に交流する機会を設定する。

エ 三校交流による小小連携の取り組み

6月27日（火） 木幡小、笠取小、笠取第二小

11月14日（火） 御蔵山小、笠取小、笠取第二小

（4）家庭・地域社会との連携

- ・ふれあいフェスタ、おもろいやんか木幡への参加。
- ・「小中一貫教育通信」（保護者、児童生徒向け）を定期発行する。
- ・中学校の「生活だより」（毎月発行）を全6年生（笠取小・笠取二小は5・6年生）に配布する。
- ・ホームページ等の活用。
- ・11月10日（金）新入生保護者説明会。

平成29年度 黄檗中学校ブロック ジョイントプラン

－ 小中一貫教育推進計画 －

宇治市立黄檗中学校 校長 石田 光春

宇治市立宇治小学校 校長 石田 光春

小中一貫教育コーディネーター

(黄檗) 中学校 氏名 齋藤 英司

◎(宇治) 小学校 氏名 吉野 美穂子

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

(1) 校訓

「たかく」 高い志を持って、学びの道を究める人

「すずしく」 さわやかな心、優しい心を持った人

「たくましく」 強い意志を持って、人生を切り拓く人

(2) 教育目標

高い志を持ち、他者と協調しながら、たくましく生き抜く人間を育成する。

(3) めざす児童生徒像

高い志を持って、学びの道を究める人（質の高い学力）

さわやかな心、優しい心を持った人（豊かな人間性・社会性）

強い意志を持って、人生を切り拓く人（意欲や情熱、健康な体）

2 昨年度の成果と課題

(1) 児童生徒の発達段階に配慮した3ステージでの指導方法の工夫や、学校行事での児童生徒相互の乗り入れの取組による交流など、9年間を見通した取組を実施し、「中1ギャップ」の解消に役立てることができた。

(2) 今年度は、本学園の研究主題である「多様な考えを持つ相手を理解し、自分の考えを正確に伝える児童生徒の育成」を重点取組とし、学力向上にむけてさらに取組内容を具体化、系統化し、学校全体で進める必要がある。

3 平成29年度中学校ブロック小中一貫教育取組の重点(各中学校ブロックにおける重点取組)

多様な考えを持つ相手を理解し、自分の考えを正確に伝える児童生徒の育成
～「聞くこと」「話すこと」「ことばのやり取り」を重視して～

4 平成29年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実

① 小中で一つの組織と考え、打ち合わせ・職員会議・研修会を小中合同で行う。その中で、適切な小中一貫教育推進のために、教職員の情報交換と意思統一を確実に行之、随時、計画や取組についての点検を行う。

② 企画委員会、前期主任会、中後期主任会等の会議を通して、ステージ毎の学習内容・生徒指導についての意見交換、指導方針の確認などを行う。小中一貫コーディネータは前期中後期主任会の両方に出席し、それぞれの会議内容を伝達し、情報の共有化を図る。

(2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

①学習指導

- ア 発達段階に応じた指導法の開発を行う。
- イ 全ての教科を通じて、「聞くこと」「話すこと」「ことばのやり取り」を大切にする授業を目指し授業づくりを行っていく。
- ウ 学力テストの結果を受け、小中共通の課題を見出したり、中学校の課題に向けて小学校段階でどのような対策が可能かを探ったりするなど、小中相互の学力分析を比較し改善策を検討する。
- エ 中学校でのテスト実施状況、課題点などを調査分析し、小学校段階での対策を練る。
- オ 定期テストの不安軽減への取組などを小学校段階で実施し、中1ギャップの解消につなげる。

②生徒指導

- ア 9年間の継続的な生徒指導を進めるために、生徒指導部長、主任、学年主任を中心にした生徒指導を進める。課題を小中で共有化し、規範意識の確立と自尊感情の醸成する。

(3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

- ① 文科省「外国語教育強化地域拠点事業」の指定も3年目を迎え、新学習指導要領の趣旨を踏まえて、小学校では1,2年生(年間18時間)3,4年生(年間35時間)で外国語活動、5,6年生(年間70時間)の外国語科を実施する。中学校では、授業を英語で行う、英語による言語活動を充実させるなど、引き続き授業改善を行う。
- ② 共に学び、共に活動できる児童生徒の育成を目指して、異年齢集団活動を実施する。児童会、生徒会それぞれに独立した組織づくりではなく、学園会を組織して、小学生、中学生という枠組を超えた学園の一員であるという意識を育む。

(4) 家庭・地域社会との連携

- ① 育友会行事への教職員・部活動生徒の積極的な参加
- ② 学園会による地域の方々へのアンケートの実施
- ③ 地域懇談会への教職員の参加
- ④ 親のための進路セミナーの開催

ブロック小中一貫教育目標

- めざす子ども像**
- ・ 高い志を持って、学びの道を究める人（質の高い学力）
 - ・ さわやかな心、優しい心を持った人（豊かな人間性・社会性）
 - ・ 強い意志を持って、人生を切り拓く人（意欲や情熱、健康な体）

昨年度の成果と課題

発達段階に配慮した指導方法の工夫や、児童生徒相互の交流など、9年間を見通した取組を実施し「中1ギャップ」の解消に役立てることができた。

学力向上にむけてさらに取組内容を具体化、系統化し、学校全体で進める必要がある。

今年度の重点

多様な考えを持つ相手を理解し、
自分の考えを正確に伝える児童生徒の育成
～「聞くこと」「話すこと」
「ことばのやり取り」を重視して～

今年度の取組**(1) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実**

- ① 小中で一つの組織と考え、打ち合わせ・職員会議・研修会を小中合同で行う。その中で適切な小中一貫教育推進のために、教職員の情報交換と意思統一を確実に行之、随時、計画や取組についての点検を行う。
- ② 企画委員会、前期主任会、中後期主任会等の会議を通して、ステージ毎の学習内容・生徒指導についての意見交換、指導方針の確認などを行う。小中一貫コーディネータは前期・中後期主任会の両方に出席し、それぞれの会議内容を伝達し、情報の共有化を図る。

(2) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実**①学習指導**

ア 発達段階に応じた指導法の開発を行う。

イ 全ての教科を通じて、「聞くこと」「話すこと」「ことばのやり取り」を大切に授業を目指し授業づくりを行っていく。

ウ 学力テストの結果を受け、小中共通の課題を見出したり、中学校の課題に向けて小学校段階でどのような対策が可能かを探ったりするなど、小中相互の学力分析を比較し改善策を検討する。

エ 中学校でのテスト実施状況、課題点などを調査分析し、小学校段階での対策を練る。

オ 定期テストの不安軽減への取組などを小学校段階で実施し、中1ギャップの解消につなげる。

②生徒指導

ア 9年間の継続的な生徒指導を進めるために、生徒指導部長、主任、学年主任を中心にした生徒指導を進める。課題を小中で共有化し、規範意識の確立と自尊感情の醸成を図る。

(3) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

① 文科省「外国語教育強化地域拠点事業」の指定も3年目を迎え、新学習指導要領の趣旨を踏まえて、小学校では1,2年生（年間18時間）3,4年生（年間35時間）で外国語活動、5,6年生（年間70時間）の外国語科を実施する。中学校では、授業を英語で行う、英語による言語活動を充実させるなど、引き続き授業改善を行う。

② 共に学び、共に活動できる児童生徒の育成を目指して、異年齢集団活動を実施する。児童会、生徒会それぞれに独立した組織づくりではなく、学園会を組織して、小学生、中学生という枠組を超えた学園の一員であるという意識を育む。

(4) 家庭・地域社会との連携

- ① 育友会行事への教職員・部活動生徒の積極的な参加
- ② 学園会による地域の方々へのアンケートの実施
- ③ 地域懇談会への教職員の参加
- ④ 親のための進路セミナーの開催